

Kyousuke Tchinai Exhibition



「冬麗か 烈・蔵壁」

独特の画風で童女シリーズを描き続ける

智内兄助展

1997 7月19日(土) — 8月31日(日)

- 休館日 7月22日(火)・28日(月)・8月は毎週月曜日 ● 開館時間 午前10時～午後6時
会期中、8月の毎土曜日は午後7時まで開館します(ただし入館は閉館30分前まで)
- 観覧料 大人500円(400円) 高・大学生等300円(250円) 小・中学生200円(150円)
()内は20名以上の団体料金

喜多方市美術館
Kitakata City Museum of Art

〒966 喜多方市字鶴巻5307-3 TEL0241-23-0404代

蔵

智内兄助は昭和23年(1948)、愛媛県越智郡波方町に生まれました。東京芸術大学在学中にシェル美術賞展で佳作賞を受賞するなど、早くから注目を集めました。東京芸術大学大学院を修了後、本格的に画業に専念し、内外の展覧会、コンクールで受賞を重ね、昭和62年(1987)の第30回安井賞展では人気投票による特別賞を受賞、平成2年(1990)には第33回安井賞展で佳作を受賞し、現代画壇の実力派として高く評価されています。

また、平成4年(1992)3月から翌年4月にかけて、毎日新聞朝刊連載小説、宮尾登美子作「蔵」の挿絵を担当し人気を集めました。

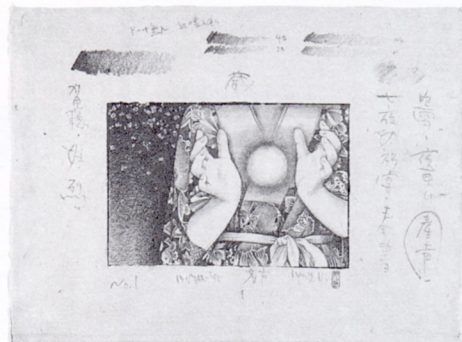
智内兄助は1980年代初頭から娘・久美子をモデルに、和紙にアクリル絵具、鉛筆などを用い独特な作風で着物姿の童女シリーズを描き続けています。

本展では384点の挿絵から、智内兄助氏の自撰による46点の挿絵「蔵」と、11点の童女シリーズの絵画作品を展示し、智内芸術の耽美・幽玄な美の世界を紹介します。

独特の画風で童女シリーズを描き続ける

智内兄助展

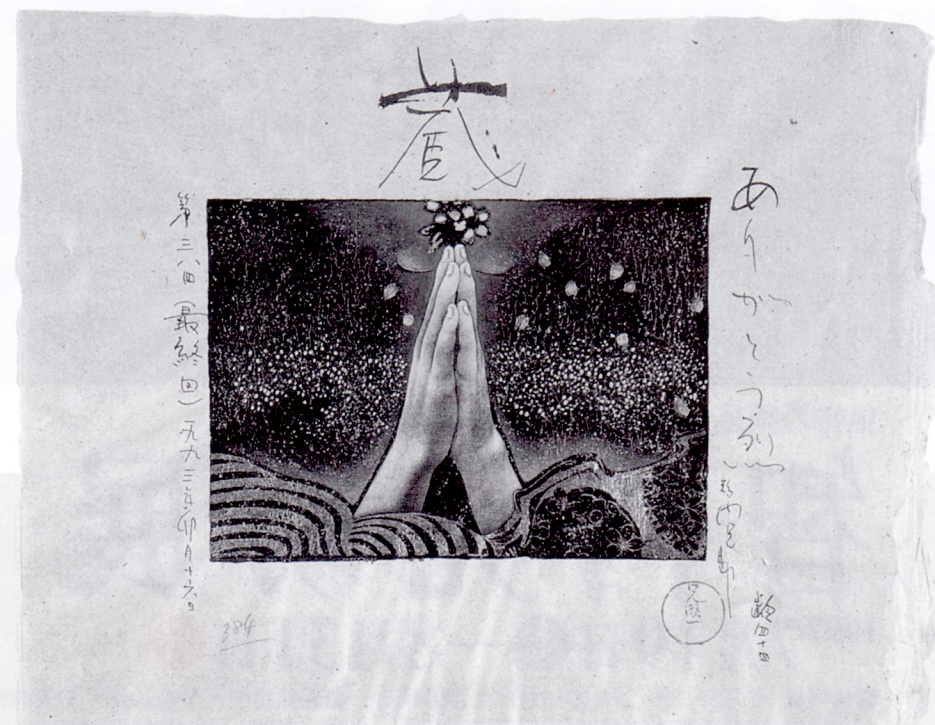
Kyousuke Tchinai
Exhibition



産声 <吹雪・夜更け・産声 七夜の祝宴・奉書 賀穂・妊・烈>



灼 <盲学校・点字 お先まっくら 灼きついて ほとんど遊びに来ず 寄りつきはしなかった>



(最終回) ありがとう、烈



春 <佐穂さんありがとう 水の音、小鳥 いい酒 かわいしい花の匂い 今年の春ほど身に沁み>



酒の匂い <烈がとってもお酒造りが好きだったこと 生まれた時からもう家でお酒の匂いがしていた 白い湯気がもうもうと 桶をころがす音 その活気とやらか好きなんです>



胸さわぎ <雛飾り ふっと胸さわぎ 烈の沈黙は野積へ 涼太を訪ねるべく決心を固め 烈が出て行った>

●ギャラリートーク

智内兄助氏を迎えてギャラリートークを開催します。7月19日(土) 午前10時30分(観覧料をお求めの上入館ください)

喜多方市美術館
Kitakata City Museum of Art
〒966 喜多方市字鶴巻5307-3 TEL.0241-23-0404(代)